

ワークショップ

「先史岩面画研究の現在:その最前線」



Font-de-Gaume, Dordogne, France

日時：2010年（平成22年）11月13日（土）

13:30 - 17:00

場所：国立科学博物館新宿分館講堂

（〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1）

<http://www.kahaku.go.jp/institution/shinjyuku/index.html>

入場無料・予約不要・通訳つき

主催：日本先史岩面画研究会

（イコモス岩面画委員会日本支部 ICOMOS-CAR-JAPON）

問い合わせ先：小川勝（日本先史岩面画研究会・鳴門教育大学准教授）ganmenga@gmail.com 088-687-6484（研究室直通）

世話人：海部陽介（国立科学博物館・人類研究部）kaifu@kahaku.go.jp 03-3364-2311



JR山手線「新大久保」駅から徒歩8分

JR総武線「大久保」駅から徒歩6分

概要：

国指定史跡の、北海道余市町にある、フゴッペ洞窟岩面刻画は、1950年に発見されました。我が国では、小樽市の手宮洞窟とフゴッペ洞窟にしか、岩面刻画などの先史岩面画の遺跡がなく、全国的には、その存在がそれほど知られているとはいえません。発見60周年を記念して、私たち「日本先史岩面画研究会」では、余市町で国際シンポジウムを開催し、海外からも3名の研究者を招待し、お話をさせていただくことになりました。余市では、先史岩面画を親しんでいただく内容を予定しておりますが、世界的な研究者に来日していただ

いているので、東京でも、ワークショップを開催することとしました。東京では、フランスと中国の2名の研究者に最新の関心についてお話を伺い、さらに、日本人研究者の発表も交え、先史岩面画研究の世界的な水準を認識していただける機会になるのではないかと思います。また、先史岩面画という美術の一ジャンルが、参加いただく皆さんにとって、世界と人間を理解するきっかけになるのではないかとともに期待しています。

プログラム：

13:00 受付開始

13:30 はじめに

13:45 楊超 YANG Chao (中華人民共和国三峡大学准教授)

「中国賀蘭口人面像岩面画の年代分析—神話的視点より」(中国賀蘭口人面像岩画的年代探析—從神話的視角)

14:45 五十嵐 ジャンヌ (東京芸術大学講師)

「ルフィニャック洞窟における動物像と記号：画面制作プロセスを通して」

15:15 休憩

15:30 ドウニ・ヴィアル Denis VIALOU (フランス国立パリ自然史博物館教授)

アゲダ・ヴィレーニャ・ヴィアル Agueda VILHENA VIALOU (フランス国立パリ自然史博物館教授)

「表象、象徴性、社会：旧石器時代洞窟壁画の多次元的分析」

(Représentation, symbolique, société: analyse pluridimensionnelle de l'art pariétal paléolithique)

16:30 質疑応答

17:00 終了



Helanshan, Yinchuan, Ningxia, China